

月刊

# 地域保健

8  
2015

●特集

## データヘルス計画における 保健師の役割

●統括に聞く

斎藤恵子さん 〈郡山市保健所 総務課 主任技査兼保健師・助産師・看護師支援係長〉

●ピープル

藻谷浩介さん 〈地域エコノミスト〉



## 8 特 集

# データヘルス計画における 保健師の役割

- 10 県内56万人分の特定健診データをマップで「見える化」、地域の健康課題を示す～静岡県の取り組み～
- 16 他部署の統計資料を多角的に分析、効率的・効果的な事業を目指す～日光市の取り組み～
- 22 連携でデータを「見える化」、糖尿病に的を絞った計画を策定～南アルプス市の取り組み～
- 28 健康・予防日本一のまちを目指して～藤枝市の取り組み～
- 33 ライフステージに応じた生活習慣病予防対策を実践～能美市の取り組み～
- 42 データヘルス計画で健康課題の「見える化」を

1 統括に聞く 斎藤恵子さん(郡山市保健所 総務課 主任技査兼保健師・助産師・看護師支援係長)

48 FOCUS 生活習慣病の重症化予防に目覚ましい効果  
尼崎市のヘルスアップ戦略～15年間の成果と新しい展開～

56 隔月連載 東日本大震災で求められている公衆衛生活動とは

97 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ!  
石下友基さん(栃木県県東健康福祉センター 地域保健部 健康支援課)

102 ピープル 藻谷浩介さん(地域エコノミスト)

## 連載

62	理解して生かす保健師用語《第5回》	「協働」
64	ESSAY 国際保健《第5回》	松田正己
66	保健師のための閑話ケア《第56回》	藤本裕明
70	中臣さんの 環境衛生ウォッチング《第41回》	中臣昌広
75	いまどき子育てアドバイス《第215回》	中川信子

福島県  
郡山市

道を切り開く立場だからこそ「何でもできる」

統括保健師はフロンティアマインドで！

斎藤恵子さん  
●郡山市保健所 総務課 主任技査兼保健師・助産師・看護師支援係長

復興の折り鶴像の横で（像はニューヨークのワールド・トレード・センターの鉄骨で作られている）



郡山市は、福島県の中央に位置する中核市。県庁所在地ではないものの、東北地方では仙台に次ぐ第2位の人口

規模（約33万人）を誇る。交通の利便性もよく、「陸の港町」ともいわれており、福島県の「経済県都」として成長を続けている。その郡山市において、2年前に初めて統括という任務に就いたのが、斎藤恵子さんだ。都市部と農村部の地域差が大きい郡山市で、70人の保健師を取りまとめる斎藤さんは、統括の仕事の意義や今後のビジョンを話していただいた。

## 人とつながる 保健師の魅力を知つて

郡山市の中でも、のどかな田園地帯で生まれ育ったという斎藤さん。子どものころは、塾通いなどで時間に追われる事もなく、野山を駆け回ったり、自然を観察したりして、のんびりと育つたそうだ。そんな斎藤さんが、保

健師になろうと思ったのは、高校時代のことだった。

「高校3年の冬になつても進路がはつきりしない私を父が知人宅へ連れてついてくれました。保健師をしていたその人は、何か人を包み込むようなおつとりとした雰囲気があり、もしかして自分に似ているかも知れないと思つたのです。それならば、私も保健師になれるのではないかと思い、高校卒業後、まずは看護学校に進学しました」

浦和市立高等看護学校（現・さいたま市立高等看護学院）を経て、当時の宮城県立総合衛生学院公衆衛生看護学科で1年間保健師になるための勉強を積む。学生時代は週1回の訪問もあり、いろいろと悩んだり、戸惑つたりしたことがあつたそうだ。

「いうのも、まだ学生という未熟な立場で、人の生活に入り込んで、どのようないい保健指導をしたらいいのかが分

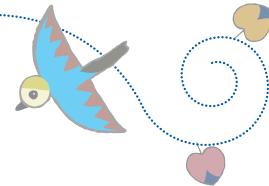




# データヘルス計画における保健師の役割

先行する一部の自治体では2014（平成26）年度中にデータヘルス計画を策定し、15（平成27）年度から計画に基づく事業が始まっている。これにより、一次予防から重症化予防まで、データに基づく生活習慣病対策が展開されることが期待される。健康増進計画などと連動させることで特定健診・保健指導の対象者だけでなく、幅広い年代を含めた健康づくり計画としている自治体、さらには自殺予防など心の健康対策まで視野に入れた自治体も出てきた。本特集では、専門職の目線によるデータヘルス計画作成のポイントを整理するとともに、保健師が深く関与した都道府県、市町村の好事例を紹介する。

- P10 県内56万人分の特定健診データをマップで「見える化」、地域の健康課題を示す  
—静岡県の取り組み  
◎土屋厚子（静岡県 健康福祉部）
- P16 他部署の統計資料を多角的に分析、効率的・効果的な事業を目指す  
—日光市の取り組み  
◎藤巻郁子（日光市 市民生活部）
- P22 連携でデータを「見える化」、糖尿病に絞った計画を策定  
—南アルプス市の取り組み  
◎長谷部裕子（南アルプス市 市民部）
- P28 健康・予防日本一のまちを目指して  
—藤枝市の取り組み  
◎藤枝市健康推進課・国保年金課・福祉政策課・健康企画課
- P33 ライフステージに応じた生活習慣病予防対策を実践  
—能美市の取り組み  
◎川本素子（能美市 健康福祉部）
- P42 データヘルス計画で健康課題の「見える化」を  
◎津下一代（あいち健康の森健康科学総合センター）



# 県内 56万人分の特定健診 データをマップで「見える化」、 地域の健康課題を示す

## 静岡県の取り組み

静岡県では地域、職域を問わず県内の医療保険被保険者56万人分の特定健診データをマップ化し、地域の健康課題を明確にすることをはじめ、保険者ごとに課題が分かるチャートを作成するなど、データの「見える化」に工夫を凝らしている。



静岡県 健康福祉部 医療健康局  
**土屋厚子**

(つちや・あつこ 健康増進課 課長)

「日本再興戦略」（2013（平成25）年6月14日閣議決定）において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画とともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する」ことが掲げられ、保険者においては、レセプトなどを活用した保健事業を推進することとされた。

そのため本県でも、リスク別にターゲットを絞った保健活動の展開や、ポピュレーションアプローチから重症化予防までの保健事業を推進しやすい体制を整えるために県として、実態調査および研修会、特定健診データのマップ化などさまざまなデータヘルス計画の支

## はじめに

静岡県は、2015（平成27）年1月1日現在総人口371万4790人（全国第10位）、高齢化率26・8%であり、医療保険者数は、国民健康保険、健康保険組合など計92保険者である。県の行政機関は本庁の健康福祉部と県下7地区の健康福祉センターで構成され、各地区的健康福祉センターは保健所機能と福祉機能を併せ持つ出先機関である。また、本庁では国保担当部門には保健師を配置せず健康増進担当部門に属する保健師が国保を含めたすべての医療保険者を対象とし、県民の健康づくりを推進している。

筆者は、本庁健康福祉部の健康増進部門に所属し、健康増進課長として、県民の健康づくりおよび生活習慣病予防対策などを総括する立場にあり、健

静岡県は、2015（平成27）年1月1日現在総人口371万4790人（全国第10位）、高齢化率26・8%であり、医療保険者数は、国民健康保険、

援を実施している。

## 静岡県の概要

## 県内医療保険者のデータヘルス計画の作成状況

康保険組合や市町国保などの医療保険者との調整に加え、部内の各関係部門とも連携し医師会などの関係団体と調整を行うことを職務としている。

15（平成27）年5月に実施した県内医療保険者向けの実態調査（92カ所、回収率100%）の結果、データヘルス計画を14（平成26）年度に作成している保険者は48カ所（52・1%）であった。その内訳は健康保険組合41カ所（100%）、協会けんぽ1カ所（100%）、市町国保7カ所（20%）などであり、残りの静岡県内の約5割の保険者が今年度中に策定予定であることが分かった（国保の22カ所の市町は今年度に策定予定）。

また、データヘルス計画を作成するときに困難に感じたことは、レセプトデータと特定健診データの効果的な分

表 データヘルス計画についての意見（健康保険組合、国保など）

作成するとき困難に感じたこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>レセプトデータと特定健診データの活用や保健事業の効果の分析</li> <li>健康課題に対応した効果的、効率的な保健指導の充実</li> </ul>
作成済みの保険者の意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>分析力がないことがわかった</li> <li>複数の保健事業について、どのように評価すればよいか悩んだ</li> <li>目標のアウトプット、アウトカムをそれぞれどのように設定すればよいか悩んだ</li> </ul>
研修会への要望
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業主との連携（コラボヘルス）の好事例の紹介</li> <li>未受診者へのアプローチの事例</li> <li>県内の健康保険組合及び市町国保のデータヘルス計画の情報交換</li> </ul>



# 相談者の背景を丁寧に見て タイミングよく支援していきたい

多種多様な価値観を理解できる保健師を目指して

いし おろし ゆう き  
**石下友基さん**

●栃木県県東健康福祉センター  
地域保健部 健康支援課



▲真岡鐵道の北真岡駅ホームにて

文：編集部 写真：C.Kent

「それ（ボイスレコーダー）で録音するんですね」

インタビュー開始直後、開口一番に興味があるそうで、

「幼いころは、よく電化製品を分解していました。例えばボイスレコーダーのような物だったら、最初はボタンを押してみて、電池のふたを開けてみたり、ドライバーでネジを取つてみたり。そのうちに、バラバラになつていて。中身がどういうつくりになつているかどうしても知りたくて、そんなことをよくやつていました。元に戻せなくなつて、親からは『これ、もう使えないじやないか』って怒られていました（笑）」

と教えてくれた。

インタビューを通して、その「中身を知りたい」という好奇心は、物だけではなく人に対しても共通していることがうかがえた。

石下さんは、栃木県真岡市にある県東健康福祉センターに勤務する入職2年目の保健師。入職当初から精神保健を担当し、電話や面接、訪問などによる個別支援、医師や臨床心理士との連携、精神障害者の家族の交流会などの業務を行なながら、『正解のない』支援に毎日、戸惑っているという。

栃木県内で生まれ育った石下さん。高校生のとき、母親がケアマネジャーとなつたのをきっかけに、福祉関係の仕事に興味を持ち始めたという。それから間もなく、祖母が入退院を繰り返

「予防の知識がなかつた」という患者の声を聞いて



# 個人の健康や幸せにおいて お金で解決できる」とは少ない



## 藻谷浩介さん



地域エコノミスト

●聞き手 編集部

写真：カミヤス セイ

地域経済再生のために尽力している藻谷浩介さんは、日本の全市町村をくまなく回り、実際に見た様子に人口などの統計数字、郷土史などを照合して地域の状態や問題を捉えている。地域にある身近な資源を活用することで生活を豊かにすることを「里山資本主義」として提案していることでも知られる。

「地域を診る」という点において、保健師と共通点を持つ藻谷さんに、物事の正しい見方や、医療と経済の関係性などについて伺った。

### まち全体の雰囲気を五感で感じて記憶する

—全国各地を「自身の足で歩いて観察

されていますが、いつごろからそういったことに関心を持つてるのでしょうか。

所も作っています。

その反面、人の顔や名前を覚えるのが苦手です。相手から見れば、ずいぶん失礼なことも多いでしょう。出身地だけ覚えていて、その話で盛り上がりたりするのですが。

藻谷 幼いころから地理が大好きで、幼稚園の年長組ぐらいのときから、行つた所のことを覚えていました。地名だけではなくて、まち全体の雰囲気を五感で感じてワッと記憶するのです。

### PROFILE ●もたに・こうすけ●

1964年山口県生まれ。株式会社日本総合研究所主席研究員、株式会社日本政策投資銀行地域企画部特任顧問。2000年ごろより地域振興の各分野で精力的に研究・著作・講演を行う。米国留学、シンガポール出向の経験を持ち、海外72カ国を訪れている。著書は『実測！ニッポンの地域力』(日本経済新聞社)、『デフレの正体』(角川書店)、『里山資本主義』(角川書店)、『しなやかな日本列島のつくりかた』(新潮社)など。

藻谷 住んでいる人の様子、気候、風土、植生、建物の老朽化具合、空き地の様子など、ありとあらゆる細かいことを感じ取ります。季節、曜日、時間帯、天気によって様子は変わりますから、バイアスがかからないように頭の中で修正します。それに人口などの各種統計数字、文化や歴史なども照合し

藻谷 幼いころから地理が大好きで、幼稚園の年長組ぐらいのときから、行つた所のことを覚えていました。地名だけではなくて、まち全体の雰囲気を五感で感じてワッと記憶するのです。

—具体的には、地域のどんなことを五感で感じているのですか？

藻谷 幼いころから地理が大好きで、幼稚園の年長組ぐらいのときから、行つた所のことを覚えていました。地名だけではなくて、まち全体の雰囲気を五感で感じてワッと記憶するのです。